

2022年2月8日

ウィズ／ポストコロナウイルス禍のICT利活用――

## オンライン教育の本格展開と質保証

～ 対面とオンラインの効果的併用／ハイフレックス型・ブレンド型の教学運営 ～

【2月25日（金）オンライン開催】

ご参画・ご派遣のお願い

昨年末頃から、在学生および新入生等だけではなく、保護者・高校関係者等のステークホルダーに向けて2022年度の授業方針について、ウェブサイト等で公に告知をしている大学が増えてきております。

「対面授業の割合はどのくらいか」、「オンラインでの授業実施はどうするのか」、「対面とオンラインの両方で実施するのか」等、おおまかな授業の実施形態について告知し、詳細については、3月頃に改めて公表するとしている学校が多いようです。

各大学の授業実施の方針を読んでいくと、「基本は対面で行なうが、履修人数が多い科目、オンラインでの受講が効果的であると認められる科目については、オンラインで行なう」とする大学が多いようです。

新型コロナウイルス禍での三度目の春。なかなかウイルス禍の収束が見通せない状況ですが、この間、多くの大学は、学生のためにオンライン等を活用して、学修環境の整備や充実した学生生活に向けて尽力してきたことと拝します。その努力と精励に敬意を表するとともに、この間の経験を活かした授業（コース）・カリキュラム・履修方法等の教学運営のさらなる発展が期待されます。

オンラインを活用した大学教育が単なる緊急対応ではなく、より積極的に教育改善・質向上にステップアップさせ、新たなステージに向かうよきチャンスかと考えます。そこで、本セミナーでは3名のベスト講師を招いて、オンライン形式で開催いたします。今後の大学教育を考える上で様々なヒントをご提供できると存じます。

第一講の田口 真奈氏（京都大学）からは、オンライン授業及びハイブリッド授業について、特徴や課題を整理し、同時双方向型／オンデマンド型／ハイブリッド型、それぞれの授業形態の質保証、そして、オープンエデュケーションの今について基調となるご講義を賜わると同時に、新たな高等教育のかたちへの提言をいただきます。

第二講の蒲池 みゆき氏（工学院大学）からは、ウェブサイトで昨年末に「2022 年度 授業方針について」を公表し、「学修内容に合わせた授業形式」や「学生生活の時間的空間的利便性の追求」を掲げ、1限と6限をオンデマンド型の授業にする等のカリキュラム編成を含めた教学改革の取り組みや検討の体制、そして今後の将来像について、ご講義を賜わります。

第三講の菊地 端夫氏（明治大学）からは、留学（受け入れ、送り出し）がウイルス禍により困難となる中、オンラインを活用した留学を導入した経緯、実施に向けた学内外の調整や制度設計、長期・短期それぞれの“オンライン留学”の動向を学生の「留学報告書」を含めご報告いただきながら、その効果、生じた課題と対応、海外派遣再開と今後の取り組みについて、ご講義を賜わります。

年度末の多事多忙の折と存じますが、貴法人・大学のキーパーソン氏のご参画・ご派遣について、ご高配のほど、お願い申し上げます。また、ご関心の方へのご案内をいただけましたら幸いです。

なお、本セミナーは全面オンライン形式で行ないます（会場対面での開催はありません）。参加方式は、「当日オンライン参加」・「メディア参加」の2形式をご用意しております。

詳細は下記URLよりパンフレット版（PDFファイル）をご高覧願います。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/220225.pdf>